琉球大学学術リポジトリ

コナガとハイマダラノメイガ

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学農家政学部
	公開日: 2011-05-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 高良, 鉄夫, Takara, Tetsuo
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19796

群

(1) 発生区、稲わら九束（平均三二五〇匁）に対し硫安反当り四四匁を混入し、一月一五日ふみこむ、

(2) 床土絶縁区

床土を入れる前に稲わら一束をしきつめ日中床土に吸収された太陽熱が床土下に移行するのを防ぐようにした。

(3) 無処理区

土の上に直接床土を置いた。

組

(1) 障子及び筵区（まこも）

日中は床内気温が三〇度C以上になった時ガラス硝子を取外し、午後五時から午前八時半までカマス一枚上からおうて保温に努めるようにした。

(2) 硝子区

日中は前組と同様な管理をした。

(3) 無硝子区

上から何も保護しなかった。（つゞく）（友寄長重）

コナガとハイマダラノメイガ

コナガによつて全滅した大根（1956年豊見城において）

この二種はダイコン、カンラン、カブその他の十字花科作物を加害する重要害虫である。

コナガ

一、虫の形 成虫は体長約六粍、はねの開張一四粍内外の小さい蛾で、全体灰かつ色を呈し、前はねの後縁に波状の黄白紋がある。卵は扁平で円形、白色半透明幼虫は体長約九粍頭部は淡かつ色、胴部は緑色を呈する蛹は体長約六粍、黄緑色ー淡かつ色を呈する。

二、加害状況 年数回発生し、幼虫は葉裏で葉肉を食害する。そのため葉は葉脈と表皮が残り、被害の著しい時は地上部は完全に枯死する。特に三月頃は発生が多いので注意を要する。

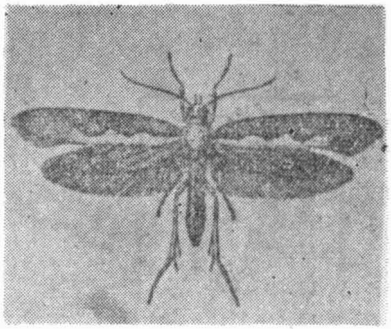
三、防除法 DDT水和剤（二〇）の六〇〇ー八〇〇倍液を作り、当初反当四ー五斗を撒布する。その後作物の生長に伴い五斗ー一石を約一週間置きに三回位撒布する。

DDTが得られない時はひ酸鉛又はデリス剤を撒布すれば良い。

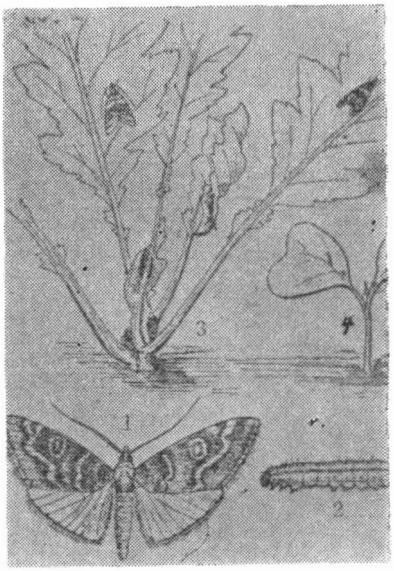
ハイマダラノメイガ

普通ダイコンシンクイムシあるいは単にシンクイムシといっているのはこの害虫の幼虫である。

一、虫の形 成虫は体長約七粍、はねの開張一四粍内外の小さい蛾で、全体灰かつ色を呈し、前はねに淡色波状の二横線と黒色の腎状紋があり後はねは灰白色を



上　コナガ（石井）
下　ハイマダラノメイガ（湯浅・河田）
1、成虫　2、幼虫　3、成虫の産卵状況　4、産下された卵



呈する。卵は扁平な円形で、長径約一、二粍、黄白色―赤色を呈する。幼虫は体長約一四粍、頭部は黒色―黒かつ色、胴部は淡黄―黄かつ色を呈し、灰かつ色の縦線がある。蛹は体長約七粍、黄かつ色―かつ色を呈し、薄い白繭の中にある。

二、加害状況　年数回発生し十字花科作物特にその幼若の時期に若葉をつづりあわせ、その中で心芽を食害する。養害の著しい時は黄変して枯死する。

三、防除法　前記コナガに準じて防除する。

（高　良　鉄　夫）

可変半経プロット法による林分材積測定法について

（三）

六　測定点の数とその位置の決定

1、測定点の数の決定

測定点の数は林分の均一性によって異なり不均一である程多くとる必要がある。この均一性を表すものが林分の変異係数であるが測定点の数は次式で求められる。

$$n = \frac{t^2 c^2}{r^2}$$

（但しnは測定点の数、cは林分変異係数、tはStudentのt分布を示す量、rは目標精度）

故に、我々はt、c、rの三つの値を求める必要があるが、誤差r（目標精度）を一〇％におさえ、tを九五％の信頼度を要求するときの大風の値を用いると林分変異係数の異なるに従って第3表の如くなる。

第3表

n	c(%)
16	20
36	30
64	40
100	50
144	60
196	70
256	80
324	90

その計算法は次の通りである

cが20％の場合　$n = \frac{2^2 \times 0.2^2}{0.1^2} = 16$

cが30％の場合　$n = \frac{2^2 \times 0.3^2}{0.1^2} = 36$

尚所要測点数は計算された値より大き目にとるのが安全である

2、測定点の位置の決定

測定点の数が決まれば次にその位置を決める必要が生ずる。このためにはまず林分材積測定箇所の図面が必要となる。若し無ければ測量して図面を用意する。

次に、次式によって測点間の長さを決める。

$$b = \sqrt{\frac{10.000A}{n}}$$

（こゝにbは測点間の長さ（m）Aは材積測定箇所の面積（ha）nは設定せんとする測点数である。

次に長さが決まると第10図の如き図面と同一縮尺で、その長さを一辺とする正方格子形を方眼紙上にかき、一方透明紙上（トレシングペーパー）に写した図面（例えば第11図の如き）を用意し、これを正方格子形の上に第12図のように重ね、格子形を図面上に写し格子形の交点を測点とする。この場合格子の縦横線を南北東西線に一致させておけば外業の際能率的で重要なことである。